第５回 羽村市産業振興計画懇談会　会議録	
日　時	令和８年 10 月２日（金）午前 10 時～午前 11 時 30 分
会　場	羽村市産業福祉センター　iホール
出席者	座長　進邦徹夫、副座長　山下敬一 委員　城　裕昭、中条　悟、田村　聖、安田英司、瀧島忠典、田村　栄、坂本順市、清水亮一、中村勝司、芳賀啓一、星野亜弓、河野浩邦、田中　誠、鈴木　茂 事務局　産業環境部長、産業振興課長、商工観光係長、商工観光係主査、農政係長、商工観光係主任
欠席者	青田昇一委員、平塚徹也委員、鬼塚昌和委員
議　題	１　議事 （1）第三次羽村市産業振興計画懇談会提言（案）について （2）第三次羽村市産業振興計画懇談会スケジュール ２　その他
傍聴者	なし
配布資料	・【資料１】第三次羽村市産業振興計画策定に向けた提言(案) ・【資料２】第三次羽村市産業振興計画懇談会スケジュール ・羽村市長期総合計画（前期基本計画）抜粋 ・第４回羽村市産業振興計画懇談会資料２修正版
会議の内容	**第４回産業振興計画懇談会会議録の確認** **（事務局）**事前に確認いただいた第４回産業振興計画懇談会の会議録（案）について、連絡を事務局にいただいているもの以外に訂正等はあるか。 －訂正なし－ 訂正等がないようなので、今後、市の公式サイトなどにより公開していくこととしたい。 **傍聴の確認** **（座長）**傍聴人の確認をする。 **（事務局）**本日の会議には、傍聴希望者はいないことを報告する。 **（座長）**傍聴希望者がいないとのことなので、早速、会議を始める。 **１　議事** （１）　第三次羽村市産業振興計画懇談会提言（案）について **（座長）**第三次羽村市産業振興計画懇談会提言（案）についてですが、これまでの懇談会で委員の皆様から、各産業分野について様々な御意見をいただき、前回の第４回では、課題解決に向けた各産業分野の方向性を資料２としてまとめるところまで参りました。後ほど事務局から説明があると思いますが、この懇談会は全部で７回を予定しておりまして、本日の第５回懇談会を含め、残り３回となっております。本日の懇談会からいよいよ提言（案）についての議論に入るに当たって、ここで改めて、この懇談会の目的を確認させていただきたいと思います。本懇談会は「第三次羽村市産業振興計画」そのものを策定することではなく、様々な立場の方々から幅広く御意見をお伺いし、それらを「提言」という形で取りまとめ、市にお示しすることが、この懇談会の役割でございます。市は、この提言を踏まえて、実際の計画の策

	定を進めることになります。これまでの懇談会での御議論、アンケート、各団体へのヒアリング結果等を踏まえまして、事務局において「提言（案）」を資料１として取りまとめております。この提言（案）の構成・フォーマットにつきましては、工業・商業・農業・観光の各分野を同一の形式で整理しておりますので、基本的にはこの形式で進めさせていただきたいと考えております。その上で、項目の並び順や表現、内容に関わる部分につきまして、本日、皆様から御意見をいただければと思います。では、まず資料１の提言（案）について、事務局から説明をお願いいたします。 **（事務局）**【資料１】説明 **（座長）**この提言（案）に関して、産業別で順番に御意見を伺いたい。 **（委員）**AI や次世代のモビリティとかいう着眼点もあるが、トヨタが e-Palette（イーパレット）というワンボックスを改造した電気自動車を発表しており、2027 年度には自動運転レベル４の実現を目指している。羽村は運転手不足で今、難儀しているという点もあるので、可能であれば実証試験という形で、協力することも視野に入れられると良いと考えます。トヨタ自動車羽村という大きな工場もあり、東京都で唯一自家用車を生産しているまちということを生かせると思う。また、学校教育等の中でものづくりや AI とか、そういったものになじませるというような視点も意識していただくと、将来地元での働き手に関して改善が図れるのかなと思います。 **（委員）**この提言（案）を自分なりに分析した結果、非常にとてもよく提言書がまとまっていると感じました。ただ、今後計画が策定されて、実際に実施フェーズに入っていくと思いますが、結局同じことが起きて、同じ結果になって、5 年後にまた同じような課題が挙がって、同じように議論するのではないかと感じました。なぜこのように思うのか、考えたときに、大きく二つ理由があると考えました。一つは、この提言（案）は前回の第二次産業振興計画策定時の提言をベースに作られていると思いますが、中身は強化されたり、具体化されていたり、更新されたり、追加されていて、中には継承されているものもありましたけれど、一次から二次に向かっても同じように作られていてページ数まで同じであった。このままでいくと、計画は 80 ページで 100 個計画があったと聞きましたが、それが作られて、実施されて 5 年後に振り返ってみると、また同じような課題が解決していないみたいなことになるのではないかなと思ったのが理由の一点目です。もう一点は、これを読んでみても結局何をすればいいのかよく分からない。細かいことは書いてあるのですけれど、逆にとても複雑で、量が多すぎるのではないかなと思った。具体的にいろいろ書かれていますが、結局抽象的なスローガンみたいなものになっていると思ったのが、理由の二点目です。行政に丸投げしているところもあって現場の実態とかけ離れていて、結局、形骸化してしまうと思いました。東京都も同じようなことをしていて、東京都産業振興基本戦略では、提言やパブリックコメントを経て 130 ページくらいのものを作られていた。何が言いたいのかというと、東京都の人口は 1500 万人で羽村市の約 300 倍ですけど、東京都が作成した戦略は 130 ページ。羽村は人口比で 300 分の１なのに、提言（案）のボリュームは５分の１くらいもある。もちろん人口比で書くべきものではないということではないと思いますが、そのくらい提言（案）が細かく、非常にいろいろボリュームいっぱい書かれている。これがきっと分かりにくくさせているのではないかと思います。みんなの意見を募集してまとめている報告書みたいになっているのかなと

	思います。提言書を作ることが目的になっていて、すごくすばらしい提言だと思いますが、本来の目的であった、それを計画して実行して課題を解決するという目的には、達していないのではないかと思う。最後にどのようにしたら良いか考えたときに、課題別で組み直して、その課題ごとに施策を提案するような構成にした方がいいのではないかなと思った。よく PDCA や KPI を取り入れなければ駄目とかいわれますが、そんなことはなくて、最近 OODA だとか、OKR だとか、そういうのを使ってやっていこうという方向になっています。これまでの考えを変えて、そういった手法も使ったやり方に進めていった方がいいのではないかなと思いました。 **（委員）**この提言（案）を読んで疑問に思ったのが、テーマの中に羽村らしさのブランディングと連携による新たなって書いてありますが、羽村らしさ、これを読んでいくと、工業に羽村らしさという単語は使われていない。商業で、独自ブランドの開発支援や羽村らしさを生かした商品サービス作り、そして農業では、7 ページの下から 7 行目に観光、体験、学校給食連携による羽村らしさの可視化を望む声も上がっている。そして観光では提言の中に座禅体験、茶道体験、うどん・そば打ち、農業体験など、羽村らしさを生かしたって書いてありますが、羽村らしさの意味がある。これを読むと、統一されていなくてわからない。テーマに挙げていますので、行政が考えている羽村らしさの意味を教えていただきたい。 **（事務局）**東京都の中にありつつも、自然に囲まれている、コンパクトなまち、また、子育てにも力をいれているといったところは、羽村らしさと捉えていますが、提言（案）にある羽村らしさについては、アンケートやヒアリング、懇談会での御意見にあった羽村らしさを記載しています。提言は行政によるものではありませんので、そこは逆に、この懇談会の中で羽村らしさっていうのを、もっと具体的にしていった方がいいのではないかということであれば、この懇談会の中で集約していただき、提言の中に羽村らしさってこのような方が良いのではないか、こうあるべきなのではないかとして、提言に入れていただけるとありがたいと思っています。 **（委員）**羽村に住んでいる住民にはおぼろげに羽村らしさというのは伝わると思いますが、この文章だけで見るとわからない。今集まっている皆さんに、逆に今、羽村らしさの質問を投げられましたが、羽村に住んでいる人間はこんなイメージかなと想像できると思いますが、この文章を読んで地域外の方って羽村らしさがイメージできるか伺いたい。 **（座長）**私は羽村市民ではりませんが、羽村市とは関わりがあるので、何となくイメージができます。羽村市はブランディングも含めて羽村らしさみたいなものをシティプロモーションとして既に発信していて、2023 年にシティプロモーションアワードで金賞を受賞しています。子育てしやすいまちを打ち出していて、皆さんのイメージは違うかもしれないですけれど、市がそれで打ち出しているのであれば、そこにぶら下げてですね、各産業ではこうだよとしていけばいいのではないかと思う。総じて、上位計画との整合性が若干あっていないような気がしていますが、課題の整理としてはすごくよくまとめていただいていると思う。この提言自体はそれでいいのかもしれないが、上位計画があって、産業振興計画として出来上がっていくわけですが、その御意見をいただく場がこの懇談会で、その上位計画には、この懇談会であっても縛られると思います。上位計画の中でこういうふうに位置づけられていてこの懇談会がこういう提言をして、そこにここに当てはまるよってい

	う形でこの提言書も出来上がっていくと、より見やすくなりますし、より理解がしやすくなるとう。上位計画を見ていくとやはり長期総合計画の中でもいろいろ出てきますが、DX の話ですとか企業誘致の話とか、先端技術産業との接続、それからスマートシティ、職住接近とかのキーワードが出ていますが、これは全然この産業振興計画の中で反映できるところだと思います。そうしていかないと、正にその PDCA というか、計画が実施に移っていきませんし、5 年 10 年後に、また同じことを議論していると思うと、せっかくこの 2 時間で、7 回、14 時間参加者の皆さんと職員の皆さんでこういう場を持っているので、それを無駄にしてしまうのは少々惜しいなと思います。ですので、最初のこの提言（案）の産業振興の基本となるテーマっていうところに、その長期総合計画と連携をとるような、そういう書きぶりにして各項目はもうこの各産業分野でいいと思う。この最初の部分だけでも、長期総合計画との関係を書いていただくと、より良いものになるような気がしますがいかがかでしょうか。 **（事務局）**当然長期総合計画との連携という形で捉えておりますが、この懇談会が長期総合計画の後期基本計画の策定と同時進行していることもあり、長期総合計画の後期基本計画の内容を取り込むことが難しいといったことがあります。この懇談会は羽村市が産業振興計画を策定するに当たって、懇談会の皆さんに広く御意見をいただくと場として委員の皆さんにお集まりいただいておりますが、そこが見えてきていなかったのは事実ですので、次期懇談会で御意見をいただく際の進め方は検討する必要があると考えます。また、座長からお話があったように、基本的テーマのところに、長期総合計画の前期基本計画の文言とか連携についての記載について御意見をいただきましたが、基本的には後期基本計画は前期基本計画を踏襲していきますので、基本となるテーマの部分については、少し整理をさせていただきたいと思います。 **（委員）**本懇談会の立ち位置というか目的は、提言を市へ提出するというのがミッションで、具体的な政策にどこまで踏み込めるかというのはありますが、今後これを参考にして市が具体的な政策を作っていくということだと思います。その際に、先ほどから話が出ていて私もそう思いますが、計画的にこれをやると、今の状態はどう変わるのか、又はどう変えていく、あるべき姿と、そういったことが政策を具体的に作る際に明示されると到達地点が見えてくると思います。提言ですから、抽象的になるのは仕方がないことですが、今後は市が具体的な政策を作るときに、政策をやることを目的にするのではなく、目的は別にあって、これを達成するためにこういう政策をやります。だから今の市の状態がこうなっているのをこう変えたいのだというのを明示していただけると、つながりが明らかになるのかなというふうに思いました。 **（委員）**今皆さんおっしゃっていただいたとおりかなと私も思います。 提言って何かなって最近考えるようになって、私なりに考えたら、要望集とかではなくて今お話があったように、現状と課題に対して、地域の目指すべき将来像だとか、そういうのをきちっと提言をしてそれをやるためにはこんな施策を市民や事業所、行政が一体となってやっていこうと。こういう施策をすればいいんだよというのをアドバイスというかそういうのをきちっと書くのが提言なのだろうなと思っています。懇談会は、どんな提言をするのかというのを決める場所なのだろうなっていうふうに私も思っていまして、

	行政が決めたことを確認するのではなく、我々が決めて良いのではないかと考えています。先ほどあったとおりブランド、これはきちっと決めなきゃいけない、大きな一つの課題であるなと思ったので参考までに、こんなふうにすればいいのではないかなっていうのを最後に紹介というか共有させていただければなと思います。羽村にはブランドが実はありまして、子育てしやすいまち、これをきちっと定義していて、展開もしていたことを知っていたので、結構有名だったのではないかなと思っていました。ただ課題は、これと産業が結びついていないということだと思っています。住みやすいまちだっていうことで子育てしやすい、非常に良くてそれはいいのですけれど、これは全く産業とひもづいていないのではないか。どのような工業がありますよとかこのようなブランドだということが全く書かれていないので、そこがはっきりしないということが問題で、それがないなら、ここできちんと何かブランドを足すというか拡張すればいいのではないかと思っています。コンセプト、ブランドとしては人が住みやすいということを拡張して、人が働きやすいだとか、人が活躍しやすいだとか、そういうのをきちっとブランドとして追加というか、提言すればいいのではないかなというのが一点と、今回是非私が言いたいのは挑戦できるまち、こういうブランドにしたいと実は思っています。小さいまちだからこそできるのだと思います。ブランドを作ろう、産業の部分がないから、きちっとプラスアルファ拡張していこう、もしそのようになったら、どんなブランドを産業として足すとなったときには是非挑戦できるまち。日本一早く実験したり、実証をしたり様々なチャレンジができるようなまちというブランドを提言し、それをどのようにしていけばいいのかという施策を、皆でこの場で考えていければいいのではないかと思っています。 **（座長）**商業に関してはいかがか。 **（委員）**商業に関しては、提言が比較的具体的なことが挙げられているのですけれど、その中でやはりそのブランドというものが、抽象的になってしまっていて、どういう形でこの支援というものに対してやっていくのかもう少し突っ込んでいかないといけないのかなというのは感じています。先ほどブランディングのところで、子育てしやすいまちが長期総合計画でもうたわれているということでしたが、これを中心に様々なものを巻きつけていくだけでも、結構各産業の提言の中に掲げられているもが解決できてくるのではないかなというのは思っていて、自分も子育てしていて、子育ては結構時間との戦いなので、羽村が掲げている職住近接で羽村の企業に勤めることによって、子育てに差し向ける時間を増やすことができたりですとか、最終的にそれが人材という一つ大きな課題の解決にもつながるのかなと思うので、一面的な見方ではなくて、子育てというものを多面的に見ることによってここに掲げられている様々な提言に対して解決策を見いだすような、ブランディングだとか、キャッチコピーだとか、そういうものが何かたくさん考えられるのかなというように感じました。 **（座長）**これまでいただいた御意見をとても細かく拾っていただいて、まとめていただいているので、書きぶりが違うとかニュアンスが違うとかという御意見があると思うのですけれど、あまりもう出てこないかなっていう印象もある。農業や観光についても、御意見があればお聞かせ願いたい。 **（委員）**農業分野で、言葉尻や何か足りないようなこと、削除したほうがよいと思うものがあるので、それはこの場ではなく後ほど事務局と個別にやれ

	ば良いいですか。 **（座長）**全体に関わってくるようなことであれば、ここでおっしゃっていただく方がいいかなとは思います。 **（委員）**提言（案）全体に関わることではないので、後ほど事務局に伝えさせていただく。 **（委員）**らしさという話は私どもの組織での理事会でも話題になりますし、私自身も会員の皆さんにそれを発信するという立場なので、結構答えをいつも追い求めているという感じです。今、私どもが、らしさというのをうたっているものが二つありまして、一つは野心的な経営者に事業の機会とリソースを提供すること、もう一つは地域で貢献したいと思う専門家に活躍の機会を提供する、ということであり、これは私どもの中期計画の中であるべき姿ということで、この二つを掲げています。一つは企業の方でもう一つは地域の活躍する人っていうことなのですけれども、羽村らしさみたいなところで、以前の懇談会でお話しましたが、市の企業活動支援員の方々が事業所を一件一件巡回をするという体制を作るのは工業振興の面で、羽村らしさだと思います。この取組は他の自治体がやっていない、羽村らしさといえます。また、八王子市と東京都工科大学の協働で八王子駅南口と桑都の杜間でバスの自動運転の実証実験を始めると聞いています。各自治体もデジタル化に関して、社会を見据えてやっていこうという動きはありますが、こういうのはやはり市がやることとか、企業がやるべきこととか大学がやるべきこととか様々な観点があるとは思う。そういう中で少しその羽村らしさというのは既に答えがあり、打ち出しが可能なものがあればそれを言語化していったらいいと思うのですけれど、まだまだ打ち出せていないというようなものがあれば、それをこの５年の計画の中で求めていく、あるいはその５年後の目標はこうなりたいっていうような目標を何か設定して、そこに向かって進んでいくのが良いのではないかと思いました。もう一点、１ページ目の提言の取りまとめに当たってというところで、また日頃感じている課題などから幅広く多くの意見が寄せられた、と書いてありますが、どちらかというと、今までがこうだっていう話というよりは皆さんの議論って、これからの羽村をどう議論するかみたいなところなので、今までの課題だけではなくて、将来に向けて意見を出し合っている場だと思うので、提言書の取りまとめに当たっては将来に向けての意見というのを是非盛り込んでいただきたいと思いました。 **（事務局）**委員からお話があった将来に向けての意見については、正にそのとおりですので、そこについては追記したいと思います。また、子育てしやすいまちといったブランドは当然打ち出していくことも必要だと思いますので、今後の計画づくりに反映させていきたいと思います。 **（委員）**今までの御意見と重なりますが、らしさというのは価値、バリューと考えていまして、提言（案）の構成上、もしそぐわないとすれば、むしろ取りまとめにあたっての冒頭のところで出していただくのも検討していただきたいと思う。バリューとか価値というのは、自信を持って発信できることと、あとは例えば市民なり、産業界の方が誇りに思うこと、こういうものをきちっと前に出していくということが必要ではないかなということで、提言の冒頭に、是非このキーワードを入れていただきたい。 **（事務局）**今羽村らしさの件で御議論いただいております。やはり差別化ですかね。やはり羽村にいることによってこういうことがある。また羽村を

	選んでいただけるというようなところでですね、やはり羽村市らしさを前面に出していくことで差別化を図れるというようなところも持っているのかなと思っています。そういうことも踏まえて、いただいた御意見を反映させていただきたいと考えております。 **（委員）**いろいろ御意見が出て、提言（案）が修正されると思いますが、これまでの議事録の中でも、企業名が伏せられていて、それはそれでいいと思うのですけれども、提言（案）で Amazon や PayPay といった名称が使われていますが、固有の企業名を記載するかどうかはもう一度お考えいただきたいと思います。また、センテンスが長いところがかなりあり、文章の内容が理解できない部分が出てきてしまうため全体をとおして確認いただきたい。一つ例を挙げると、特徴である一方で、という記載は、特徴であるで句点で区切り、一方で、というように続くような、そういう直しを施策の着眼点の内容も含めてされたらいいと思う。もう一点、スクラップアンドビルドについて話したい。今回の提言（案）では、何かをやるというビルドばかりですが、廃止や見直しについて観光案内所しか触れられていないで点が私としては少し気になりました。 **（事務局）**文章の関係、企業名の関係は載せるべきなのか、それとも削るべきなのかそこを整理して考えさせていただきたいと思います。また、スクラップアンドビルドについては、繰り返しになってしまいますが、提言は皆様からの提言書なので、スクラップというのはなかなか出てこないかと思いますので御了承いただければと思います。 **（座長）**一息でしゃべれるぐらいの文章が良いそうですので、内容を確認する際の参考にしていただければと思う。 **（委員）**今日を含めて 3 回で提言書を完成させなきゃいけないという認識ですが、今後の懇談会の進め方について提案させていただきたいと思う。まず、市のブランド、これがつまり将来のイメージみたいなものになると思います。ブランドって市外から羽村に来た方が羽村って聞いたときに、羽村って産業はこんなイメージだよねっていう共通のイメージだと思います。それをきちっとまずはみんなで定義し、こういうふうにすればいいよねっていうのを作って、それを提言にしてそれをまず作った後に、それをベースに、課題は何だと、そしてそれを解決する施策はこれをやれば課題が解決されて、そのみんなの言っているブランドになるんだよというまとめ方でやった方がより現実的というか実現的な提言になるのじゃないかなと考えます。今までの話が全く無駄ではなくて、今までは細かく各産業にどんな課題があるよねとかどんなことすればいいよねっていうのを詰めてきていると思うので、それは皆も、既にわかっている上で羽村市としての将来像をある程度固めて、それの課題は今挙げた中でこんなことだよねと施策にまとめていけばいいのではないかと思います。最後に、最初に決めるのはやはり難しくて、すごく時間が必要になると思いましたが、先ほどの子育てしやすいまちっていうブランドは何かの記事で読みましたが、市民共創型ブランドということで高く評価されたのじゃないかなと思っています。つまり、市が何かを考えて、これどうですかではなく、市民の方から羽村市ってこうだよねとか、こういうブランドがいいんだよねっていうように、市民共創型ブランドですって紹介された記憶があるので、羽村ってそういうことができるのであれば、ここに集まっているメンバーである程度産業に対してはこうだよというのをまず仮でもいいので決めて、それに向かって提言をまとめていくというアプ

	ローチも良いのではないかと考えます。 **（委員）**一つの方法として、グッドデザインアワードとかデザイン振興協会というところがやっている賞は、工業製品のブランドばかりではなく、自治体の取組も、審査の対象になるはずなので、グッドデザイン賞を取るんだみたいなものに目標設定をされると、一つゴールが見えるのかなと思って提案させていただきました。 **（座長）**ブランドって、産業振興計画の中でのブランドはこうですよ、子育て支援はこうですよ、というように個別にやってしまうと、バラバラになってしまい羽村らしさが見えにくくなってしまうのかなと思います。産業振興計画の中でというよりは、羽村市全体としてブランディングをしていくっていうことがまずあって、そこから産業振興計画はそれに基づいて、どうしていくのということになるのかなという認識なので、例えば、羽村らしさのブランディングについて基本となるテーマに書いてありますけれど、これはそれこそ上位の計画に放り投げておいて、それを生かしていくというような位置づけにした方が良いかなと思います。ただそれも、先ほど御意見があったかもしれませんが、期限を切ってやっていかないと、また 10 年後の計画にブランディングと書いてあると議論が平行線なので、是非そこはいつまでにとかっていうふうにして切っていったらいいのかなとは思います。それを振興計画の中に書き込むかどうかは別の話にはなりますが。 **（委員）**9 ページの文章で、トライアスロン大会など新たな取組への期待も示されたとありますが、先日実施されたトライアスロン大会は個人の団体が主催する大会であり観光事業ではないので、この部分は削除していただきたい。 **（事務局）**新たな取組という例示として記載しましたが、表現については検討させていただきたい。 **（委員）**第 4 回資料の修正版にもありますように、工業、商業、観光、農業という順番でしたが、今回の資料は順番が工業、商業、農業、観光になっています。これが正式な並び順になるのでしょうか。上位計画に従ってこの順番になっているということでよろしいか。また、資料 1 の 2 ページのところに、産業振興の基本となるテーマが 4 つ書かれていますが、12 ページ以降の施策の着眼点で、産業分野別にこの 4 つのテーマに照らし合わせて記載されていますが、テーマがないものが結構あり、例えばテーマの 1 としてデジタル化と生成 AI への対応による産業の高度化については、商業にしか書いていない。第 4 回懇談会の資料 1、観光の方向性として、SNS とデジタルメディアの積極的な活用うんぬんと書いてあり、まとめるとテーマの 1 となることから、テーマ 1 は観光の施策の着眼点として一番に記載されてもおかしくないと思いました。21 ページにテーマ 3 として、たくさん書かれていますけれども、行政主導のアプリや Web ページですとか、小さなイベントの周知、市の LINE や掲示板等、22 ページの市内名所を巡るスタンプラリーなどは今大体スマホを使ったデジタル系のスタンプラリーが多いと思いますが、こういうものも多分あると思うので、一つはですね、各産業別の中でテーマが書かれていないのが少し不自然なのではないかと思いました。それからもう一つ、2 ページにある産業振興の基本となるテーマの 4 つはそのとおりだなと思いますが、この順番はこれでいいのかなというのが少し気になっていて、先ほどからずっと羽村のブランディングっていうのをずっと皆さんお話されていることもあり、3 番目でいいのかなとか思いました。ま

	とめると、４つあるテーマの順番はこれでいいのかなということと、それから各産業分野別に書かれているテーマというのをもう少し項目的に整理すれば、４つ挙げているテーマに分類されて、見た目がまとまるかなというように思いました。 **（事務局）**産業分野の順番について、産業振興計画の中では、工業、商業、農業、観光の順で記載しておりますので、その順に統一させていただきます。２ページのテーマの並びについてですが、順番としてまず今お話があったとおり、並びについては優先順位を整理させていただきたいと思います。施策の着眼点については、いただいた御意見の中でテーマに該当するものがないものもあるかもしれませんが、振り分けた内容を再度確認をさせていただきます。 **（委員）**今、委員がおっしゃったようなことを絵に描くとこんな感じになると思いました。工業、商業、農業、観光というのが縦軸にあって、下段のところに、社会インフラというか、デジタル化みたいなところの社会インフラというのがあり、それぞれ今、各産業に影響を及ぼしているというか、もう変わっていかざるを得ないような状況がこの下にくっついていくと思います。もう一つは何かそこから新しい産業が生まれるみたいな、そんな構図かなと思っています。別にこれは羽村市に限ったことではなくて、世の中全体に起こっていることだと思いますが、そういう中で多分あまり DX や AI の産業をここに誘致するみたいなことは今のところ市の政策としてはあまり考えていないと思いますが、それを活用しながら最初の話にあった、羽村らしさだとか、子育てがしやすいまちづくりとか、そこのところでブランディング化するみたいなことがですね、この冒頭のところでうたえるといいのではないかと思いました。あともう一つ。提言（案）について、前例踏襲でいくと、取りまとめにあたってがあり、基本テーマ、工業、商業、農業、観光の順番に進めて、最後にその他の提言となっていると思いますが、結構その他の提言に盛り込まれていることがとても大事というかですね、懇談会の意見はむしろこのその他の提言に集約されているような気がしたので、これが本当は冒頭にあるといいなと思いました。 **（事務局）**委員おっしゃったとおり、その他の提言のところが、懇談会での意見が集約された部分ですので、レイアウトの変更については検討させていただきます。 **（座長）**どこかに、一つ書いていただくといいかなと思うのが、今日この場に来ていただいている皆さんは、羽村市の産業振興計画をこうしたらいいのではないかという御意見を持ってらっしゃると思います。計画が策定、実行される中で、振り返りも出てくるのでしょうけれども、そのような場を設けてほしいという話ではなく、進めていく中で、ここにいらっしゃる皆さんが当然主体となって進めていかれるわけでして、それをどこかに書いたらいいかなと。例えば、観光に関しては、観光分野の人たちだけが頑張ればいいわけではなくて、教育関係者と一緒に何かやっていくとかですね、そういう意見も出ていましたよね。誰が主体かというのは全部具体的に書いていただく。そうしていかないと、全部市役所で抱えるのは絶対無理なので、この懇談会には様々な団体の皆さんもいらっしゃるので、いろいろなリソースを使うんだよということはどこかに書いた方が良いと思います。全部市役所が入るってことになるのは、無理ですから、是非そういう形で書いていただくといいかなと思います。他に御意見についていかがか。

	－意見なし－ (2) 第三次羽村市産業振興計画懇談会スケジュール **（座長）**第三次羽村市産業振興計画策定策定計画懇談会スケジュールについてに移ります。それでは事務局から説明をお願いしたい。 **（事務局）**【資料 2】説明 今後、提言書の提言のまとめを進めていきますが、御欠席される委員の皆様もいらっしゃると思いますが、御意見等がございましたら事務局にお寄せいただきたいと思います。 **（座長）**本日予定されていた議事はこれで全て終了となります。円滑な議事進行への御協力ありがとうございました。次回の第 6 回では、本日の御意見等を踏まえ、修正していただいたものを議題にしたいと思います。それでは進行を事務局にお戻します。 **（事務局）**円滑な進行ありがとうございました。また各委員の皆様におかれましては、活発な御意見をいただき、ありがとうございました。次第の 2 その他でございますが、委員の皆様から何かございますでしょうか。 **2　その他** **（委員）**次回はどんな内容の話をするのか。 **（事務局）**本日の懇談会でいただきました御意見を踏まえ修正した提言（案）について御意見をいただきたいと思います。 **（委員）**つまり今回いただいたこの提言（案）の構成や文章が変わっていて、また全部一通り読んでみて思ったことを言ってくださいという感じですか。例えば、今日の話の種は羽村市のブランド未来像をどうしようかという話をした方がいいのではないかとみんなで話したと思いますが、それは今後どういう扱いになっていくのですか。私が勘違いしているのであれば訂正していただければいいのですが、残り 2 回、何をすればいいのか少しよくわからなくなってきたので。 **（事務局）**本日いただいた提言（案）についての御意見や御指摘を踏まえて修正し、次回懇談会で御意見をいただくという形になります。ブランド化の話をたくさん御意見をいただいたところですが、市としての方向はどうだったのかっていうところは、子育てしやすいまちという話もありますので、そこを軸に少し提言に含めることができないかというところは考えたところです。また、新たな羽村らしさというものの具体像を、集約できるかというと、これは集約が難しいのではないかと思いますので、この部分はそういった御意見があったということを提言の中で整理しておくのがよろしいのかなと思っているところです。羽村らしさについて、残りの懇談会で全部を皆さんで突き詰めていくのは難しいのかなと思いますので、次回の進め方としてはそういった御提案をさせていただきました。 **（委員）**難しいということは理解しました。いずれにしても冒頭に発言したとおり、提言なので、5 年後に第四次が開催されないこと。これを目指してほしい、ただそれだけです。 **（事務局）**それでは、本日は長時間にわたり、御議論いただきありがとうございました。これで会議を終了させていただきます。ありがとうございました。